



滝沢ブランド品の開発を

齋藤 美子さん (野沢)

滝沢村は、人口日本一の村となりましたが、これにふさわしい村の特色や地域を活性化させる各産業の振興策が見えないように思います。

最近いたるところで、村の財政が厳しいとよく耳にします。財政を安定するには、農産物の滝沢ブランド品づくりなどの産業振興が必要です。

村内には大学が2校あります。しかし、卒業する優秀な人材が滝沢村を去ることが残念です。



産業の振興

活力といきいき働く

主な事業

(千円以下切り捨て)

- 花き振興対策…………… 39万円
- 農業担い手支援育成事業…………… 1,459万円
- 米生産調整推進事業補助金…………… 101万円
- 農業施設整備事業…………… 1,088万円
- 環境にやさしいりんごづくり…………… 65万円
- 相の沢牧野管理…………… 2,176万円
- 家畜排せつ物処理施設整備…………… 9,625万円
- 起業機会創出支援事業…………… 254万円
- 産学官連携コーディネーター共同研究 …… 80万円
- 滝沢村地域工業活性化事業…………… 210万円
- キャンプ場管理事業…………… 4,171万円
- 商工会補助金…………… 1,337万円

- 問** 商工会補助金は団体補助金が減額されているなか、同額で推移しているがなぜか。
- 答** 村にとって商工業の振興が大きな課題であります。他部門の補助金についても適切に予算配分し、執行したと考えています。
- 問** 産学官のコーディネーター共同研究の実績は、経費は職員派遣の人員費等でありますが、実績は企業と岩手大学の研究により生体用の金属開発の研究を橋渡ししています。
- 答** 産学官連携コーディネーター共同研究は、企業と岩手大学の研究により生体用の金属開発の研究を橋渡ししています。

- 問** 有害鳥獣(カラスなど)の駆除実績と特区の申請など積極的な駆除施策を展開する考えは。
- 答** 駆除の実績はカラス259羽、キジバト10羽、カルガモ31羽です。今年度からオリを設置し、今後の駆除方法についても検討していきます。
- 問** 16年度の農業振興の力点は何か。また、今後の地産地消の展開は。
- 答** 今後も都市近郊型のハウス栽培を中心に力を入れ、花きを中心に進めたい。また、地産地消の取り組みとして女性農業者が中心となって学校給食の食材提供を実施しており、他の施設も含めて地元調達できる体制作りを考えていきたい。

国保特別

反対 討論

桜井 博義 議員

国保財政の赤字の要因として、景気の低迷による所得の減少があり、収納率の低下につながっています。滞納者を減らすためにも減免基準の見直しや、税の引き下げが必要であります。また、国に対しても国庫補助負担を増額するよう強く要望すべきであります。

医療費の増加による国保財政の圧迫もありますが、予防に力点を置いた施策が重要です。

特に低所得者などに更なる配慮が必要だったと考え、決算認定に反対します。